

合宿による能登島宿泊の後押しを！

木下議員 10月に開催した市民と議会との懇談会で出た要望で、年間11万人に迫ろうとしているスポーツ合宿等における能登島地区の宿泊について、教育旅行は受け入れているが、サッカーなどのスポーツ合宿の宿泊数は非常に劣っている。何とか能登島地区の宿泊をもう少し後押しできないのか。

小川産業部長 平成26年度の合宿による能登島地区での宿泊は約5,000人泊で、平成27年度も同じぐらい見込んでいます。サッカー(高校生)は1チームの人数が多く、一同に一つの民宿で宿泊することが難しく、能登島の民宿を利用するチームは少ないが、少人数のバレーボールや小中学校のサッカーの合宿には利用されている。また、今年7月にテニスコートもオープンしたことで、少人数でのテニス合宿も見込まれることから、今後より一層能登島での宿泊を促していきたい。市では、お風呂場などの水回りの環境を整えるための改修工事の事業も行っており、民宿の方々にはこれを活用し、受け入れ環境の一層の充実をお願いしたい。

その他の質問項目
■観光誘客 ■七尾駅前商業施設パトリア
■市民と議会との懇談会での要望



サッカー合宿の様子

ふるさと納税を増やす対策を！

高橋議員 輪島市や能登町、穴水町などは、ふるさと納税で寄附される金額や件数が、七尾市と比べて格段に多い。そこで、七尾市もふるさと納税の拡大に向けた取り組みが必要だと思いが、最も効果的なのは返礼品。七尾市は、もつと七尾らしさが伝わる品などを検討し、適切に情報提供を行う必要がある。ふるさと納税の拡大は、財源確保だけではなく、七尾の魅力創出・発信に直接繋がるものと考えている。この取り組みの必要性、重要性についての見解は、不嶋市長 ふるさと納税は、本来、寄附者の自治体を本来に支援したいという思いで行うもので、返礼品によって意図的に寄附を誘発したり、特産品などの情報発信を行ったりするものではないと考えている。七尾市では、現段階で特産品などを送るような対応はしていないが、返礼品を充実することで、七尾市としての感謝の気持ちをしっかりと伝えたい。感謝の気持ちを、市の特産品のPRやブランド化など、市のイメージを広く全国にアピールできたりもする。今後は、七尾市として節度ある返礼品制度を検討していく。一歩踏み出すつもりでしっかりと対応していきたい。

その他の質問項目
■協働のまちづくりと産業振興の関連
■5歳児健診 ■市内中学生の列車事故



ふるさと納税のパンフレット

安心してできる教育環境の充実を！

伊藤議員 先日の中学生の踏切事故で、最初の発表とその後の発表で内容の違いがあったのはなぜか。事故後の学校の様子、保護者への対応についてはどうなっているのか。また、七尾市において、イジメのない児童生徒が安心してできる教育環境の取り組みなど、今後どのように考えているのか。近江教育長 最初の発表では、従来の調査でイジメはなかったと報告があったが、その後聞き取りも含めた再調査を行った結果、以前にイジメがあったということが判明した。事故の翌週から、学校ではスクールカウンセラーを入れて、生徒の心のケアに当たり、保護者には説明会の開催をした。今後必要であれば、改善策を含めた新たな対策について、保護者の理解と信頼を得られるように説明会を開催する。また、今後は教職員の意識向上やシステムの再構築、イジメ等に対する迅速かつ的確な対応の研修の充実などが必要。その他にも、イジメに対するアンケート調査の記入方法、記入場所、回収方法のほか、相談窓口の設置や声なき声を聞く意見箱の設置などの改善を行う。そして、PTAとも連携を深め、地域も一体となった取り組みを進めていきたい。

その他の質問項目
■ひな人形が結ぶ国際交流 ■矢田郷公民館の建設
■子育て支援強化 ■老人クラブの充実



学校の教室

地域で連携を密にした防災活動を！

杉木議員 28年4月から始まるコミュニティセンターは、地域の防災の拠点にもなっている。いろいろと安心・安全なまちづくりに向けて地域の防災について協議をしていると思うが、どのような内容で進んでいるのか。また、地域づくり協議会と各町会の自主防災組織が合同で、どのような連携を図り、どのような形での災害に対する訓練などに取り組んでいるのか。不嶋市長 コミュニティセンターで行う災害時対応は、現在の市民センター同様、防災拠点としての機能を確保している。そのなかで、災害時の防災活動で、まず消防団等との連携を密にし、自主防災組織が一体的な組織活動ができるような体制づくりを構築するよう現在進めている。また、合同の災害訓練については、平時において地域づくり協議会や消防団、自主防災組織が連携して、危険な場所や避難路の点検、効果的な図上訓練、避難訓練などに取り組んでいく必要がある。このような取り組みを、地域づくり協議会が中心になって行ってほしい。市も地域防災力の向上に自主防災組織活動マニュアルの策定や訓練時の講師派遣など、必要な支援をしっかりとしていく。

その他の質問項目
■人口減少 ■児童専用野球場



自主防災組織

観光施設のドッグラン設置を！

山添議員 北陸新幹線の開業や能越自動車道の開通によって、観光客をはじめ、たくさんの方が七尾市に足を運んでくれるようになった。今後は、そういった方々の多様なニーズに答えていくことが課題になる。その課題の一つとして、ペット連れの方々への受け入れ体制整備があり、ドッグランの設置を検討してみてもどうか。今後、需要が増え、必要性が高まると思うので、早めに条件整備して設置してみてもどうか。こうしたことで、市のイメージアップにも繋がるのではないかと。小川産業部長 近年、ペット連れの観光客が増えている。各施設において、飲食や特産品の購入をしたりトイレに行ったりするとき、基本的にペットを連れている人は出来ないため、時に不便をかけることがある。このような状況で、道の駅のとじま交流市場の指定管理者から、隣接する芝生広場にドッグランを設置したいとの提案を受けているところ、今後いろんな調整を行った上で、前向きに検討したいと考えている。

その他の質問項目
■主権者教育 ■労働安全衛生



道の駅のとじま横の芝生広場

アスロンの今後の運営対応は!?

永崎議員 現在の指定管理者が来年度継続しないとした理由はどのようなことと理解しているのか。それを受けて行った指定管理者の公募は、どのような状況だったのか。また、どのようなことを期待して公募を行ったのか。その条件の一つに、市は指定管理料を支払わないとしているが、その理由は。もし、公募の結果、新たな事業者が決定出来なかった場合、施設の封鎖や取り壊し等の道へ歩んでいくのか対応を伺う。登美健康福祉部長 努力はしているが今の指定管理料では運営が出来ないということ。今回、指定管理者をプロポーザル方式による公募で行い、1回目は5社から問い合わせがあったが、応募はなかった。この公募は、指定管理料のない利用料金制を採用することで、市の負担が軽減された施設運営になることを期待して行った。これは、七尾市を取り巻く将来を見据えた行財政の視点、また人件費や経費の見直しを行うことで、管理経費の削減や効率的な運営によることを考えている。現段階では、2回目の公募をかけ、次の公募者をとにかく決めることを最優先する。

その他の質問項目
■原子力防災訓練 ■ふるさと納税
■企業誘致と創業支援



健康増進センター アスロン

※プロポーザル方式…複数の業者から目的に対する企画を提案してもらい、その中から優れた提案を行った者を選定すること。